様式２

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	11・学図	第１学年 第２学年 第３学年	国語・728 国語・828 国語・928	中学校国語　1 中学校国語　2 中学校国語　3

取扱内容 （学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等）	○　話すこと・聞くこと 第１学年では、構成メモをもとにスピーチをしたり、相手から情報を聞き出しインタビューをしたりする活動、第２学年では、条件に沿って情報を整理しながらプレゼンテーションをしたり、互いの考えを検討しながらディベートをしたりする活動、第３学年では、聞き手に伝わる話し方を工夫しスピーチをしたり、パネルディスカッションをしたりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　書くこと 第１学年では、本の魅力が伝わるよう構成を工夫しブックカバーを作ったり、インタビューしたことを新聞記事にまとめたりする活動、第２学年では、絵をもとに表現を工夫し物語や詩を創作したり、社会の出来事に対し構成を考え意見文を書いたりする活動、第３学年では、観点を決めて批評文を書いたり、中学校生活を年表にまとめエッセイを書いたりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　読むこと 第１学年では、文章展開に即して要旨をまとめたり、２つの文学的文章を比較し共通点や相違点を交流したりする活動、第２学年では、登場人物の言動について交流したり、筆者の考えに対し自分の立場を明確にして読んだりする活動、第３学年では、表現の特徴や意味、効果を捉えたり、筆者の視点や主張を捉え自分の考えを発表したりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 第１学年では、古典特有のリズムを味わいながら古文を読む活動や、音声の働きや仕組みについて理解を深める活動、第２学年では、登場人物の心情や作者の思いを想像して古典を朗読する活動や、話し言葉と書き言葉の違いを理解する活動、第３学年では、歌が詠まれた背景に注意して和歌を読む活動や、和語・漢語・外来語などの使い分けを理解する活動が取り上げられている。 ○　知識・技能の習得、活用、探究への対応 「ついた力を確かめよう」において、第１学年では、目的に応じて要旨を捉えたり、描写に注意して読んだりすること、第２学年では、心情を表す語句に注意して読んだり、文章構成や展開の工夫を理解したりすること、第３学年では、文章の論理展開の仕方を捉えたり、表現の仕方を説明したりすることなど、学習したことを振り返り、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る学習活動が取り上げられている。
内容の構成・排列、分量等	○　内容の構成・排列 第１学年では、作品の魅力を伝える文章を書く活動の後に、段落の役割を考えて新聞をまとめる活動を取り扱い、第２学年では、友達にスピーチをする活動（第１学年）の後に、資料や機器を効果的に活用しプレゼンテーションをする活動（第２学年）を取り扱い、第３学年では、対立した立場で意見を深めディベートを行う活動（第２学年）の後に、様々な立場から意見を出し解決を図るパネルディスカッションを行う活動（第３学年）を取り扱うなど、系統的、発展的に学習できるよう工夫されている。 ○　内容の分量 第１学年～「話すこと・聞くこと」は６教材、「書くこと」は６教材、「読むこと」は 35 教材であり、総ページ数は 326 ページで、前回より約 18%減となっている。 第２学年～「話すこと・聞くこと」は６教材、「書くこと」は６教材、「読むこと」は 37 教材であり、総ページ数は 334 ページで、前回より約 18%減となっている。 第３学年～「話すこと・聞くこと」は７教材、「書くこと」は６教材、「読むこと」は 36 教材であり、総ページ数は 321 ページで、前回より約 18%減となっている。
使用上の配慮等	○　日常生活や社会生活に生きて働く言語能力を身に付けることができるよう、「発見する読み」を掲載したり（全学年）、読書に親しむ態度を養うことができるよう、「読書に広げるために」などを掲載したり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　学び方を確かめることができるよう、学習のポイントを示した「学びの窓」を設けたり（全学年）、見通しをもって学習できるよう、「学習の見通しを持とう」を設けたりするなど（全学年）、生徒が主体的に学習に取り組む工夫がなされている。 ○　巻頭に教材の構成や学習の進め方などを表した「この教科書を使うあなたへ」を示したり（全学年）、巻末に古典の学習に生かすことができる「古典文法」や「今に伝わる注意したい古語」を掲載したり（全学年）するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	○　北海道と関連のある教材は、「片言を言うまで」「短歌十五首」など５箇所取り上げられている。 ○　「スイミー」などの教材の一部を取り上げ、小学校国語で学んだことを中学校国語の導入単元として位置付けるなど、小・中の接続を意識したつくりになっている。 ○　色使いや文字の大きさ、書体など、誰にでも見やすく分かりやすいよう、ユニバーサルデザインの視点を取り入れたつくりになっている。